

住みよいまちを目指して

平成22年度 町政座談会開催

町民の皆様から、まちづくりに対する建設的な意見・要望を広く聴き、町政に反映する、平成22年度町政座談会が町内9地区で開催されました。座談会には、自治会長をはじめ、地区住民の方々、町執行部などが出席しました。このコーナーでは、主な内容を抜粋、要約してお知らせします。

布勢地区

〔八月四日〕

佐白ふれあいセンター

問1 認知症等で介護の必要な高齢者が老人ホーム等に入らず、待機している方が多くいると聞きます。

老人ホームへの入所を希望する待機者に対しての増床計画も含めた町の考えを伺います。

答1 町では、来年度にあいサンホームを二十床増床し、待機者の削減を図る計画です。また、在宅待機者については、デイサービスやショートステイなどの介護保険によるサービスを利用していただく一方で、高齢者の居住の場として、高齢者住宅の確保についても、今後検討する予定です。（健康福祉課）



布勢地区会場

問2 八代駅は奥出雲町の玄関口の駅であり「日本の訪ねたい駅舎40」にも選ばれており、「砂の器」のロケ舞台でもあります。そのためマイカーで駅を訪れ散策している方も多く、布勢幼稚園のトロピカル列車見送り隊が各種メディアに取り上げられました。現在、自治会などでも除草作業を行っているもの、一時的な清掃にすぎず、抜本的な整備が望まれます。整備の考えを伺いたい。

答2 昭和七年に建築された出雲八代駅は、昭和の風情がある駅舎として、特に近年写真撮影等に来訪される方が増え、人気のある駅舎のひとつになっています。また、地域挙げての活動により駅の魅力が一層高まっている状況です。町では、駅舎の風情を大切にしつつ、機能を向上させるため、平成十六年にトイレを整備、昨年度は外壁を塗装しました。環境整備については、今後地元の皆様及びJRと協議したいと考えます。（地域振興課）



JR出雲八代駅舎

三成地区

〔八月六日〕

カルチャープラザ仁多

問1 医療改革について医師、看護師の確保

島根大学医学部との新たな連携、奥出雲キャンパスあるいは付属病院分院の創設・島根リハビリテーション学院の島根大学への移管・奥出雲病院における終末期医療体制の充実（奥出雲消防署から距離のある地で発生の救急事案対策）

答1 奥出雲病院では、医師の招へいに向けて大学の医師への働きかけや地元出身医師への個別アプローチなどを行っています。看護師についても、就職ガイダンスへの参加、ネット広告の活用など確保に取り組んでいます。島根大学医学部自体が深刻な医師不足となっている中で、現状でも最大限の協力を頂いています。限られた医療資源を効率的に活用するために、資源集中と機能分担が取り組むべき課題となっており指摘の附属病院化は極めて困難です。（健康福祉課・病院）

問2 少子化対策について地元在住の若者が減少するのを食い止める手立てとして、山村留学など県外から学生を呼び込む事は出来ないでしょうか。また、里親制度の推進と合わせて受け入れ児童を町の空き施設への誘致は出来ないでしょうか。

答2 本町においては第三子以降の保育料や給食費の無料化、医療費の無償化等子育て家庭の経済的負担の軽減、また乳幼児教育の充実と就労支

亀高地区

〔七月二十四日〕

玉峰山荘交流館

問1 亀高幼稚園設立について亀高幼稚園は高田幼稚園と統合して運営されています。園児数が減少している今、0歳児から預かる幼保一元化は地区にとっても重要と思えますので亀高幼稚園の設立を願っています。

答1 幼児園設立については、地区の皆様の総意を基に、町財源を考慮しながら、また福祉社とも連携を図り進めていきたいと考えます。（子育て支援室）

問2 少子化対策について地元在住の若者が減少するのを食い止める手立てとして、山村留学など県外から学生を呼び込む事は出来ないでしょうか。また、里親制度の推進と合わせて受け入れ児童を町の空き施設への誘致は出来ないでしょうか。

答2 本町においては第三子以降の保育料や給食費の無料化、医療費の無償化等子育て家庭の経済的負担の軽減、また乳幼児教育の充実と就労支



亀高地区会場

・平成十五年より、国立大学では統合再編が進められ、この頃より学院においても、島根大学や県立大学への移管について要望活動をされましたが実現せず、今後も難しいと考えます。（総務課）

（奥出雲病院）



様々な課題を抱える奥出雲病院

遠隔地の場合、自家用車とのリレー方式の提案がありましたが、奥出雲消防署の管轄内の救急要請は、基本的には救急車での搬送を行っております。

また発生場所等を踏まえ、防災ヘリコプターで搬送が必要と判断された場合は、ヘリの出動要請をしていただいています。（総務課）

問2 生活基盤の整備について安心安全な歩道空間の確保とその活用（街づくり委員会と道路管理者の連携）路線バスの新規路線開発（高齢化に伴う新規路線整備オンデマンドバスの活用）

「鬼の舌震」観光（一体性のある周遊散策計画、サイクリングターミナルとの連携）

答2 昨年十一月に三成地区街づくり委員会が発足しました。今後、市街地の整備について具体的な協議が始まると思っておりますが、関係機関の間で連携が必要であると思っておりますし、委員会を通じて連携が図られると考えます。（建設課）

出雲町地域公共交通会議」を立ち上げ、地域においてどのような公共交通の形態やサービスが必要なのか検討しています。なお、交通手段を持たない高齢者の方々の外出支援として、タクシー助成を行っています。（地域振興課）



三成地区会場

サイクリングターミナルとの連携については、既に「トロピコ&サイクリング」を実施していますが、サイクリングターミナル及び三成連担地との連携等については今後検討します。（地域振興課）